
promise

明日歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

promise

【Nコード】

N7749L

【作者名】

明日歌

【あらすじ】

主人公の かみしろ 神代 まこと 慎

が家の都合で転校することになった。

そこで みやの 宮野 さえ 紗江に出会う。

紗江とは実は昔1回だけ会ったことがあり、約束をかわした。

今はそのことを忘れてしまった慎・・・

その約束を果たそうと待ち望んでいる紗江・・・

2人の行く末は・・・どうなるのか・・・。

犬？猫？人間・・・！？

「神代 慎です。よろしくお願いします。」

パチパチと拍手の音が聴こえる。

そう、俺はこの夏急に家の都合で転校することになった・・・

この桜浜高校に・・・

「初めましてよろしくね！」

そう話しかけてきたのは隣の席の・・・

「・・・えつと・・・？」

「宮野 紗江だよ！覚えてね！」

「ああ・・・よろしく。」

正直、女は苦手だ。

『さーちゃん！』

「あ、李子ちゃん！」

『おやあ？彼が噂の転入生君？？』

「そうなの！神代 慎君だよ！」

・・・また女か・・・

「この子は結城 李子ちゃんだよ！」

「・・・よろしく。」

『へえ〜そつかあーよろしくねえー！』

「あ、そうだ、お昼に楓君誘って4人で食べない？？」

『おお！いいねえ。』

4人・・・つてことは・・・

「俺も！？」

「うんっ・・・あ、嫌だった・・・？」

「え・・・いや・・・」

泣きそうな顔をしている。宮野は美人の類に入る。

正直可愛かった・・・。

「うん、分かった。OK」

「ほんとぉ！？ありがとー！」

「・・・。」

犬みてえな女だ。

なんかめんどい事になったな・・・
これから・・・どうしよう・・・。

犬？猫？人間・・・！？（後書き）

いやー、初投稿だったんで

短い話もよく分からないと思いますが。

これからどんどん投稿していくんで。

楽しみにしてくださいw

でわ！是非是非よろしくです！

新しい友達

く屋上く

李子『いったただつきまゝす!』

紗江「わあゝっ慎君のお弁当すっごく美味しそう!」

慎「そう?」

紗江「うん!たこさんウィンナーかわいいー!」

慎「食べる?」

紗江「えっ……でも……いいの……?」

慎「別に。」

紗江「ありがとー!じゃあ、アタシの玉子焼きあげるー!」

李子『いいなあーアタシもおー玉子焼きとウィンナー欲しいー』

紗江「うんっ、いいよ!ああゝおいひいゝ」

やつぱり……モテるんだな、食べてるからか男の視線に気づいてない……。

李子『あれえゝ?楓君はあー?』

慎「楓?」

紗江「あっそつか慎君知らなかったよね」

どこかで聞いたことのある名前だ……。
いつだろう。なんか懐かしく感じる。

紗江「楓君はね〜アタシの幼馴染なの！」

慎「……そつか……。」

紗江「うん。仲良くしてあげてね！」

慎「ああ、分かった。」

にしても、遅いな。何してるんだろう。

慎「ごめん、ちょっとトイレ」

紗江「いつてらっしゃい」

李子『……さ〜ちゃん……。』

紗江「ん？」

李子『慎君にホントのこと言わなくていいの?』

紗江「……うん、今は……。これでいいの……。」

李子『そつか……。でも、いずれバレちゃうことだから早めにね?』

紗江「うんっ、アリガトね！あ、楓君！こっちこっち」

楓「おゝお待たせ。」

紗江「楓君今日はパンなんだねえ」

楓「まあな。作る暇なかったから・・・。」

紗江「そつかあゝ、そういう時はアタシ作るのに」！

楓「紗江にはいつもなんかしてもらってるしいいよ。」

紗江「そう？でもアタシ弁当作るの好きだしいつでも言ってるね！」

楓「ああ、サンキュ」

紗江「いえいえ」

李子『こらこら、いつまでイチャついてるの。』

紗江「ほええ！？」

楓「い、いちゃついてねえよッ！」

李子『あはは！おもしろっ』

紗江「もうっ！馬鹿あ！」

楓「・・・。」

李子『はっはっは！．．．にしても慎君遅いね』

紗江「あゝ確かに〜どしたんだろ．．．」

慎「．．．。」

あの2人．．．付き合ってたのか．．．
なんでだろう、今日はじめて会ったはずなのに．．．。
なんで、こんなに．．．．．。

慎「はあ．．．。」

紗江「慎君ッ見〜つけた！」

慎「え．．．。」

紗江「遅いから迎えに行こうと思ったたらここにいたんだね　！！」

慎「ん．．．うん。」

紗江「校舎案内するから早く食べちゃお！」

慎「．．．うん．．．。」

楓「お？神代？」

慎「あ、はい？」

楓「おおゝ久し・・・初めまして！柴田 楓だ。よろしくな！」

慎「神代 慎です。よろしく。」

紗江「あれ？李子ちゃんは？？」

楓「ああ、用事があるから先戻ったぞ」

紗江「そつかあゝ、そうだ！楓君も一緒に校舎案内しょ？」

楓「OK。」

紗江「それじゃッ行こっか！慎君早く早く！！！」

慎「あ・・・うん・・・」

・・・別に校舎案内とかいらなただけだな・・・。

まあ、いいか・・・

何故か、宮野の頼みは断っちゃいけない気がしたんだ・・・。

続く。

新しい友達（後書き）

2回目の投稿ですがっ

登場人物が増えたんで一応誰が喋ったか分かるように
名前を書いておきました！

それではッ次回もお楽しみにッ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7749/>

promise

2010年12月31日20時57分発行